

生み出す製品に 自身の意思を全力で込めて

ライダーズに欠かせない革ジャンを
一つ一つオーダーメイドで作る

須山 哲也 さん



「手作り」を大切に革ジャンを注文から販売まで全て自分で行っている須山さんに話を聞きました。

自分で全てを作る道を目指して

高校生の頃は私服の学校だったこともあって、インポートショップに通うなど服ばかり買っていました。洋服の世界に興味を持ったのはこの頃から。服飾専門学校に進みたいと思っていたところ、母から「服が好きなんだからその道に進んだら」と背中を押され進学。反対されると思い、自分からは言わずにいたものでうれしかったことを覚えています。

専門学校でオートバイに乗り始めたことが革ジャンにはれたきっかけ。これを生地からデザイン、製作、販売まで全て自分で手がけたいと思っていました。しかし、当時は希望をかなえられない働き方が少なく、いろいろな仕事をしながら技術を磨く道を選びました。

専門学校の先生や生地で、販売などを数年ずつ経験しているうちに「やっぱり自分の作ったものを売りたい」と思い、革小物を作る会社に入社。そこで洋服部門を任せられ、その

仲間と独立し、現在のブランドを立ち上げました。

周りの支えと意思の広がり

独立から6年後、仲間と離れ一人ですべてを行う体制に。受注のために全国各地におもむき、帰ってから製作に没頭する日々を続けていたら体を壊すことが多くなってしまいました。製作のミスも増え、悪循環になっていくことに悩んでいました。そんな時、SNSで製品を気に入ってくれた台湾のディーラーと知り合い、まとめて注文してもらえようになりました。これにより彼からの注文と得意先を数カ所に絞り落ち着いて製作できるように。周りの助けは大切だと実感した瞬間でした。

手作りというのには「自分一人ですべて作り上げる」ということ。それを背負うことは大変ですが、自分の意思を全力で製品にぶつけられます。私の作るものにはそんな私の強い意思がこもっています。受注から完成までは約半年。受け取りに来店したお客さんが目の前で革ジャンを着て「ピタタリですね」と満足そうな顔をしているのを見るのが震えるほどうれしい瞬間です。

2年前に埼玉県川口市から現在の川口商店に会社を移転、会社も本年で25周年を迎えました。最近では関東を始め、県内外からオートバイに乗って来てく



1968年明科東川手生まれ。有限会社フオースピード取締役。ライダーズジャケットを中心に革製品の制作・販売を行っている。2年前に両親の介護を機に現在の場所に店舗・工房を移転。



◀FourSpeed LEATHERS HP

MEMO
○革ジャン
須山さんが主に製作するのはモーターサイクルレザージャケット。オートバイに乗る時に着用することを考慮して作られている。ライダーズジャケットとも呼ばれる。
○川口商店
明科の犀川橋西側で営業していた商店。須山さんの同級生の実家。

れる人も増えてきています。また、SNSを見たハリウッド俳優からの注文が入るなど、私の製品に込めた思いが広がってきていると感じています。今後は、店舗に実際に来てくれる人からの受注の比率を増やしていきたいと思っています。そのためにもオートバイから感じる安曇野の景色をPRしながら手作りを大切に製作を続けていきます。

梅雨に映える 花菖蒲と地域の活気

6月14日・15日 安曇野明科あやめまつり



ハナショウブと地域の交流を楽しむ催しがあやめ公園と龍門淵公園で開かれました。当日は特産品の販売やラフティング体験などが、特設ステージでは吹奏楽やダンスの発表も行われました。あいにくの雨降りとなりましたが、訪れた人たちは雨にぬれたハナショウブをイベントと一緒に楽しんでいました。一体感ある演奏で会場を沸かせた明科中学校吹奏楽部の秋山明依さん(14・明科光)は「緊張したけれど、客席からの手拍子が力になった。地元の祭りに参加できるのは励みになる」と話し演奏していました。

時空を超えた25年のタイムトラベル 過去と今と未来をつなぐ

6月22日 大口沢区タイムカプセル発掘・埋設式

豊科田沢の大口沢区でタイムカプセル発掘・埋設式が開かれました。カプセルは、25年前に同区の標高最高地点である「山の神」に埋めたもので、この日集まった区民ら約20人が山の神に参拝した後、掘り起こしました。その後、同じ場所に25年後の未来へ希望を込め、新たなカプセルを埋めました。家族3世代で参加した高橋陽仁さん(8)は「写真や手紙を兄弟3人で書いて入れた。将来開けるのが楽しみ」と話してくれました。

この後、開封祝賀会がビレッジ安曇野で開かれ区民の手元に中身が渡りました。参加者は写真や手紙などを見ながら25年のタイムトラベルに浸り、当時の思い出を語り合っていました。



玉ねぎを求めて 笑顔あふれる

6月14日・15日 安曇野玉ねぎ祭り



毎年大盛況の安曇野玉ねぎ祭りが本年も市内17会場で開催されました。豊科の吉野集落営農組合では、午前8時の開場に合わせて入場待ちの長い車列ができ、収穫体験をする家族連れ等にぎわっていました。

毎年玉ねぎ祭りに参加しており、本年初めて収穫体験をしたという福田美奈子さん(松本市)は「玉ねぎは毎日使えるのでたくさん収穫したい。収穫体験は普段できない貴重な経験。子どもも楽しんでいるので来てよかった」と話し、真央さん(7)、悠太くん(5)は「取るのが楽しい」と話し、笑顔で収穫していました。